

---

## 【年次報告】

### コロナ禍における研究会運営

内藤慧

---

2020年から始まる未曾有の病禍は世界中を巻き込み広がり続けている。他の営みと同様にあらゆる学術共同体が、「コロナ禍における」あり方を程度の差はあれ模索することを強いられた。現在（2021年3月末）、哲学・思想系に関して言えば、多くの学会が対面からオンライン開催へと移行すると共に、新たにオンラインの強みを生かした地域横断、分野横断的な学術系ウェビナーも開催されてきた。私はこの状況を比較的好意的に受け取っている。否応ない求めに応じた変革は、結果として既存の体制を見直し、必要に応じて改善する好機となり得るだろう。もちろん個別の事柄には善し悪しがあるし、ドゥルーズという哲学者は「管理社会論」の中で、労働・教育・医療の遠隔化（例えばテレワークの推進）に対する警戒心を顕わにしている。単純に変化を言祝ぐだけではもちろん意味がない。

DG-Lab（ドゥルーズ＝ガタリ・ラボラトリ）はこれまで京都府長岡京市にて、隔月で対面の研究会を開催してきた。阪大檜垣研や関西圏の院生を中心としつつ、筆者のような関東出身者や、アカデミアには属さないドゥルーズ読者も参加しており、大学組織から多少距離を取った運営を目指して長岡京市の生涯学習センターを開催場所としてきた。特定の大学、研究室、アカデミックな共同体に閉じこもらない学術共同体の運営、というのがDG-Labのコンセプトの一つだったと言える。その点でDG-Labにとって、コロナ禍における変革はそれほどストレスなく実行できたと言える。2020年3月の研究会のみ中止となったが、それ以後速やかにオンライン開催へと移行し、以降現在まで隔月開催のペースを維持している。オンライン化によって関東に拠点を置く研究者が定期的に参加することが容易になったし、世代の離れた層にとっても参加しやすい環境になったと言える。実際にオンライン化以降、研究会への新規参加者、全体の参加人数共に増加している。

現執行部（得能、佐原、内藤）はオンライン化に際してミーティングを行い、研究会のあり方を見直す機会を設けた。その際話題になったのは、オンライン開催の研究会というものを、一つのコンテンツとしてどのように捉えるのか、という問題である。学術

共同体においてはしばしば、大会やイベントの本質はあくまで内容とみなし、内容以外の面に割く努力の優先順位を低く見積もる傾向が否定できない。例えば、「膨大な情報量をたった数枚のページに羅列しただけのパワポ発表」は多くの哲学系学会で横行し、かつこれを問題視するのは邪道であるかのような雰囲気も否めない。しかし否応なしにオンライン・コンテンツとなった現在の学会、研究会は、当然オンライン・コンテンツの文法によって構成され、理解され、評価されることになる。（これはもちろん会の内容にも影響することであり、それゆえにこそ全てをオンラインにして良いわけがないのは自明である。）とすればオンライン開催を決定した以上は、研究会をオンライン・コンテンツとして見直す必要がある。われわれは内容のみならずウェビナーという一つのオンライン空間の演出、形式、時間配分、発言者の偏りや配分、進め方、何をもち帰って貰いたいのか…といった事柄について議論した。当面の間は引き続きオンライン開催を継続するだろうし、必要に応じて都度、会のあり方を調整していくことになるだろう。DG-Labが提供する研究会という空間が、一つのオンライン・コンテンツとして成熟していくこと、それは決して情弱商売でもなければ「バズ」への迎合でもない。ほとんどの学術共同体が現在求められていることだと、私は考えている。

さて、2020年はドゥルーズ＝ガタリの最晩年の著作『哲学とは何か』をテーマに読書会を開催した。2018年にはDG-Lab発起人の一人である小倉拓也氏の『カオスに抗する闘い』によって取り上げられ、2020年夏には近藤和敬『ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する』によって急激に解像度が上がった本著作であるが、計5回の研究会を通じて確実にDG-Lab内での読解・議論の水準が上がっていったという印象を、私は持っている。最初の内はやはり手探りで、読書会は一つ一つの概念、個別のパラグラフが何を言っているのか、少なくとも何は言っていないのか、最低限の意義の確定に終始していた。しかし1年を通じた読解作業によって、より一層踏み込んで、結局どういう事柄が問題になっているのか？という問題提起が可能になってきた。もちろん参加者各々が再び個別の概念の精査に立ち戻ることになる

のは必定だ。こうした共同的な解釈の営みを、現在の情勢の中で  
もどうにか実現できたことは、大変喜ばしいことだと思う。

## 2020 年活動記録

### 第31回

【日時】2020年1月25日(土) 14:00-19:00

【場所】長岡京市生涯学習センター(バンビオ1番館内)、6階・会議室3

【合評会】『ドゥルーズの自然哲学 断絶と変遷』法政大学出版局(2019)

【読書会】『哲学とは何か』(担当:平田公威)

### 第32回

【日時】2020年6月6日(土) 14:00-19:00

【使用アプリ】Skype

【読書会】『哲学とは何か』2-7 「被知覚態、変様態、そして概念」 担当:F. アツミ(Art-Phil)

### 第33回

【日時】2020年7月25日(土) 14:00-19:00

【使用アプリ】Skype

【読書会】ドゥルーズ、ガタリ『哲学とは何か』2 内在平面(担当:内藤慧)

【研究発表】西川耕平「判断をめぐるドゥルーズとアレント—カントの第三批判をいかに受容するか」

### 第34回

【日時】2020年9月26日(土) 14:00-19:00

【使用アプリ】Skype

【読書会】ドゥルーズ、ガタリ『哲学とは何か』3 概念的人物(担当:佐原浩一郎)

【研究発表】得能 想平 「『差異と反復』の問題設定について」

### 第35回

【日時】2020年11月14日(土) 14:00-19:00

【使用アプリ】Skype

【読書会】ドゥルーズ、ガタリ『哲学とは何か』4 哲学地理(担当:佐々木晃也)

## 関連イベント

### 『ジル・ドゥルーズの哲学と芸術 ノヴァ・フィグラ』合評会

DG-Lab <https://dglaboratory.wordpress.com>

ジル・ドゥルーズの哲学と芸術  
ノヴァ・フィグラ 合評会

2021年3月27日 (土)  
14:00-17:00 ZOOM開催

参加：要事前申込 (申込フォーム)  
<https://forms.gle/SSA4LdLdSuB1e109>



提 題 者：黒木秀房  
コメンテータ：合田正人  
コメンテータ：小林卓也  
司 会：得能想平

タイムスケジュール

趣旨説明	14:00-14:05
自著紹介	14:05-14:25
合田氏コメント	14:25-14:55
小林氏コメント	14:55-15:25
休憩	15:25-15:35
応答および質疑	15:35-17:00

主 催：大阪大学人間科学研究科共生学系共生の人間学分野檜垣立哉研究室  
DG-Lab (ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ)

提題者：黒木秀房

コメンテータ：合田正人、小林卓也

司会：得能想平

#### タイムテーブル

14:00 趣旨説明

14:05 自著紹介

14:25 合田氏コメント

14:55 小林氏コメント

15:25 休憩

15:35 応答および質疑

17:00 閉会

日時：2021年3月27日(土) 14:00-17:00

オンライン開催：使用アプリ：Zoom

定員：90名(入場無料)

主催：大阪大学人間科学研究科共生学系共生の人間学分野檜垣立哉研究室、DG-Lab(ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ)